

20. 酸性雨等森林衰退モニタリング事業 (国庫委託事業)

新井一司・亀谷行雄

〔目的〕

林野庁では、酸性雨等による森林への被害状況を把握するため、1990年度から1999年度まで10ヶ年にわたって全国1200ヶ所の地点の森林を対象にモニタリング調査を実施した。2000年度からは、この追跡調査として第3期モニタリング調査が継続して行われた。現地調査等は、国からの委託により各県が分担することとなっており、東京都では今年度、1ヶ所が該当している。なお、本事業は国庫委託事業であり、今年度調査したデータの解析・公表については林野庁が行うものとされている。

〔方法〕

林野庁 研究普及課が定めた『酸性雨等森林衰退モニタリング事業 実施マニュアル 第3期改訂版』に基づいて行った。調査地は、図 - 1に示した八王子の1地点である。調査地点は、スギ人工林であり、5年前と10年前に調査が実施された地点である。調査地の概況を図 - 2に示す。

各調査地において、概況調査を行うとともに、0.1haの円形プロットを設置し、毎木調査(樹高1.3m以上の樹木の樹高と胸高直径の測定、ha当たり材積やha当たり本数などの算出、10年前の毎木調査における測定データとの比較)を行った。さらに植生調査(樹高1.3m以下の樹木、草本、シダ植物の植物名とその優占度)、衰退度調査(目視による評価と10年前と同じ位置からの写真撮影)を行った。

〔結果〕

以上の測定項目についてマニュアルの様式に従って取りまとめ、2001年度の報告書として林野庁へ提出した。



図 - 1 モニタリング調査地点



図 - 2 調査地点の概況